

棚田に吹く風

2025
夏
Summer
季刊

- 
- 2 特集
棚田地域振興法の
改正について
 - 6 棚田・里山からのたより
協同の精神と豊かな里山
～この地で暮らす誇りを胸に
新潟県佐渡市片野尾地区
 - 8 フォトエッセイ
よみがえる西谷棚田
 - 9 コラム
棚田見聞録
生きもの屋の里山考
 - 10 特別寄稿
ベトナムの棚田を訪ねる
 - 12 読者のひろば
 - 14 棚田俳壇
つ・ぶ・や・き
 - 15 Project Report
トロノキファーム奮闘記

棚田地域振興法の改正について

農林水産省 農林振興局
農村政策部地域振興課 中野利尚



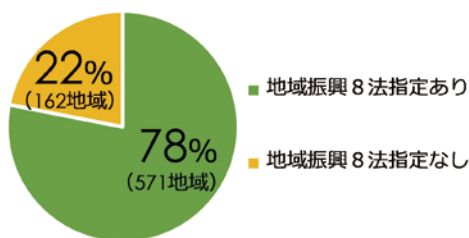
はじめに

棚田地域振興法は、棚田の保全及び棚田地域の振興を図るため、令和元年6月12日に5年間の時限法（法期限…令和7年3月31日まで）として議員立法により成立しました。

本稿では、棚田地域振興法制定後5年間の取り組みと今回の法改正の内容についてご紹介します。

棚田地域振興法の活用状況

棚田地域振興法は、指定棚田地域において協議会を組織し、活動計画の認定を受けることにより、各種優遇措置の対象となります。法制定からの5年間（令和7年3月末まで）で指定棚田地域は41道府県で733地域が指定され、活動計画は39道府県の441地域で200計画が認定されています（図1）。



（1）優遇措置の適用状況

指定棚田地域に指定されている733地域について、地域振興8法※の指定を受けてい

私達の貴重な財産である棚田を守り、地域の振興を図る上で棚田地域振興法の果たす役割はとても大きいものです。今号では、農林水産省で棚田地域の振興を担当している中野利尚課長補佐に、この法律改正について解説していただきます。

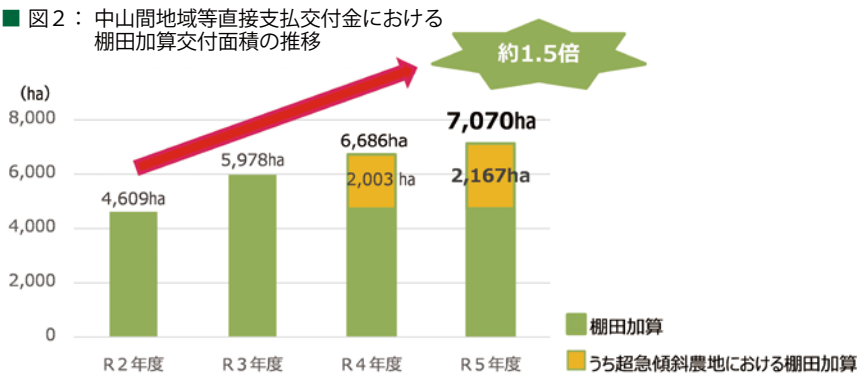
ない地域が162地域あり、これらの地域において、条件不利地域として新たに補助率の向上の対象となりました。

※地域振興8法は、特定の地域で実施する公共事業等について優遇措置を講ずることにより、その地域を発展させようとする法律で、「特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律」「山村振興法」「過疎地域自立促進特別措置法」「半島振興法」「離島振興法」「沖縄振興特別措置法」「奄美群島振興開発特別措置法」「小笠原諸島振興開発特別措置法」を指します。

これにより、これまで地域振興8法の指定を受けていない162地域において、延べ251地区で農業基盤整備関係事業が実施され、これに係る国庫補助率が50%から55%に向上されたことにより約72億円分の地元負担の軽減につながりました。

また、中山間地域等直接支払交付金では、令和

■ 図1：指定棚田地域における地域振興8法の指定状況



2年度から棚田地域の振興を図るための取り組みに対する支援として、棚田地域振興活動加算が創設され、さらに令和4年度からは、超急傾斜農地保全管理加算による単価の引き上げも措置され、令和5年度の取組面積として約7千haが棚田加算の対象となっています（図2）。

棚田地域振興法の改正の概要

今回の法改正では、法期限を令和12年3月31日まで延長するとともに、左記の事項が新たに追加されました。

- (1) 農地法等による処分の迅速化に係る特例措置の追加
直売所等を整備する場合の農地転用等の手続きを迅速に行う旨が追記されました。
- (2) 国及び地方公共団体の努力義務の追加
国の棚田地域振興コンシェルジュや地方公共団体による棚田地域振興に資する各種事業に関する情報提供をプッシュ型で積極的に行う旨が追記されました。
- (3) 国及び地方公共団体の配慮規定の追加
棚田地域振興に関する施策の推進に当たり、次の事項について積極的な措置を講じていく

こととされました。

- ① 農業の振興を図るための生産基盤の強化、地域特産物の開発・生産・流通、消費の増進、先端的な技術の導入、観光業等との連携を推進する。
- ② 鳥獣被害の防止及び被害防止に寄与する人材の育成・確保に努める。
- ③ 棚田地域への移住、定住及び二地域居住を推進するため、住宅の整備、地域的な共同活動への支援等生活環境の整備を推進する。
- ④ 移住又は二地域居住しようとする者への情報提供、便宜の供与等を推進する。
- ⑤ 棚田地域の農業・多面的機能等に対する国民理解の醸成、農泊の促進等都市等と棚田地域との交流の促進等を推進する。
- ⑥ 棚田地域との関わりを持つ者の間における連携及び協力の確保を図る。

加えて、国会での議論において、法律に書き込めなかった事項について、委員会決議・附帯決議がなされました（次ページ参照）。

これらの法改正を受けて、国では「棚田地域の振興に関する基本的な方針（以下「基本方針」という）」を改正し、棚田地域振興の更なる推進を図っていくこととしています。



棚田カードの例

寺坂 (TERASAKA)

所在地 埼玉県秩父郡横瀬町大字横瀬字寺坂
 棚田枚数 約250枚(約4ha) 平均勾配 約1/10
 主産品 米(ミルキークイーン)、古代米(黒米)
 農作業時期 代かき:5月下旬 田植え:5月下旬～6月上旬
 稲刈り:9月中旬

秩父のシンボル「武甲山」を正面に望む、県内最大級の規模を誇る棚田です。棚田の地形は約2万年前の最終氷河期以前に形成されたといわれ、南面には磨製石斧の製作跡と考えられる寺坂遺跡(縄文遺跡)があります。稲作は鎌倉時代には行われていたとされ、現代でも棚田の美しい風景を残す保全活動が行われています。

注目のイベント

交流イベントとして、7月にはかがり火やキャンドルライトを灯して実際にホタルも飛び交う「ホタルかがり火まつり」、9月には200万球の彼岸花が咲き誇る「彼岸花まつり」が開催されるなど、それぞれ幻想的な空間をお楽しみいただけます。

棚田カード No. 11-01- 令和元年 7月



つなぐ棚田遺産認定マーク

棚田地域振興法の一部を改正する法律案
 に対する附帯決議

棚田は、農産物の供給にとどまらず、国土の保全、水源の涵養、生物の多様性の確保その他の自然環境の保全、良好な景観の形成、伝統文化の継承等の多面にわたる機能を有する国民的財産である。棚田を保全し、棚田地域の振興を図るためには、棚田及び棚田地域の置かれた状況に十分に配慮した上で、様々な課題に対処することが求められる。

よって、政府は、「棚田地域振興法の一部を改正する法律」の施行に当たり、左記事項の実現に万全を期すべきである。

記

一 棚田地域の特性に即した農業の振興を図るために、中山間地域等直接支払制度における棚田地域振興活動加算等の活用が更に促進されるよう検討を行い、必要な措置を講ずること。

二 棚田地域における農地の区画整理、農業用排水路、農道、法面の修復等の小規模な整備を図るとともに、草刈機等の棚田等における農作業の省力化を図るために必要となる先進的な機器等の導入を確実に進めるために必要な措置を講ずること。

三 農林水産省、環境省等の野生鳥獣被害対策の関係省庁は連携して、棚田地域における野生鳥獣被害の防止対策が実効性を確保しつつ継続的に実施されるよう必要な支援を行うこと。
 右決議する。

※衆議院農林水産委員会においても、同様の内容で令和7年3月18日に決議されています。

棚田地域振興に係る各種取り組み

棚田地域の振興に当たっては、法律に基づく取り組みのほかに、様々な取り組みを展開しており、それらの一部をご紹介します。

(1) つなぐ棚田遺産

平成11年に「日本の棚田百選」が認定され、時間が経過したことから、令和4年に「つなぐ棚田遺産」ふるさととの誇りを未来へ」として271棚田を認定し、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的機能に対する一層の理解の促進を図っています。

(2) つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター

企業、NPO等の多様な関係者とともに棚田地域を振興するために、「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター制度」を創設し、令和7年4月時点で43企業を認定しています。認定された企業では、積極的に棚田地域振興に携わっていただいています。

(3) オフィシャルサポーターと棚田地域のマッチングイベント

棚田地域における企業連携を積極的に推進していくため、棚田地域の振興に関する取り組みを行う「つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター」と棚田地域を結びつけるオンラインマッチングイベントを開催しています。毎年一定数のマッチングが成立しています。



棚田地域振興法勉強会の様子



関西万博の出展風景

< 棚田地域振興に関する施策の変遷 >

- 平成 11 年 7 月 日本の棚田百選認定（134 棚田）
- 平成 12 年 4 月 中山間地域等直接支払制度開始（現在 6 期目）
- 令和 元年 6 月 棚田地域振興法成立（議員立法）
- 令和 元年 7 月 棚田カード第 1 弾発行
- 令和 7 年 4 月現在、第 5 弾まで発行（36 府県 259 地区）
- 令和 2 年 棚田地域振興に資する施策を公表
- ・ 中山間地域等直接支払交付金の棚田地域振興加算の創設
- 令和 4 年 3 月 「つなぐ棚田遺産」認定（271 棚田）
- 令和 4 年 4 月 超急傾斜農地における中山間地域等直接支払交付金棚田地域振興活動加算の単価の引上げ
- 令和 7 年 3 月 棚田地域振興法改正

（４）棚田カード

棚田地域を盛り上げ、棚田保全の取り組みの一助となるよう、令和元年7月に第一弾として31府県56地区で棚田カードを発行。令和7年4月には第5弾を発行し、これまでに36府県・259地区で棚田カードを発行しています。

（５）大阪・関西万博

令和7年6月8日から15日まで、大阪・関西万博にて、棚田カードや棚田地域の特産品（棚田米、日本酒等）の展示、VRゴーグルによる棚田模擬体験を実施しました。

おわりに

棚田の保全や地域振興については、人手不足等で非常に困難な状況ではありますが、法延長に伴う新たな活動計画の策定を通じて、各地域での取り組みを再度見直していただき、是非、関係者の皆様が同じ目標に向かって、前向きなプランを策定していただければと考えています。

最後に、棚田地域の現場で御尽力いただいている関係者の皆様、また本法改正に関わった皆様に敬意を表すとともに、今後の各地域での活動に、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

棚田・里山
からの
たより



協同の精神と豊かな里山 この地で暮らす誇りを胸に

里山と里海と絶景棚田

日本海に浮かぶ佐渡島には美しい棚田が多くあります。その1つ、片野尾地区の棚田は、島の南東部の小佐渡山脈の地すべり地帯に拓かれています。山の上から駆け下りるように青い海へと続く棚田の卓越した景観は、見る人を圧倒します。落葉広葉樹の林から豊富に湧き出る清冽な水が棚田を潤し、川から海に注がれて豊かな藻場や魚介も育んでおり、里山と里海のつながりが強く感じられる地域でもあります。

小農と大農が協働する 村の法人

地域の棚田を存続させるため、2007年、地元の農家で片野尾とき舞株式会社が設立されました。各農家が株主になり、会社と農地の委託契約を締結し、その農地を会社が各農家に再委託する形で営農しています。年を取っても生きがいとして稲作を続けたい農家も多い

新潟県佐渡市片野尾地区

ため、法人化後も個人の営農活動を維持し、一方で、離農した家の田を会社で管理することで、耕作放棄の拡大を防いでいます。また、会社で事務や米の販売活動（生協への有利販売）、機械の共同利用、作業受託、新規就農者の育成などを一括して担うことで、効率的な経営と地域農業の維持を両立しています。2025年現在で、23戸でおよそ14ha、250枚程度の棚田を維持しています。

トキのふるさとの棚田

片野尾には美しい物語があります。日本のトキが絶滅に向かっていった時代、最後の5羽がこの棚田に生息していました。当時、片野尾の人々が、トキのエサとなるドジョウを1斗缶に入れて背負って山の上の棚田まで運んで放つという懸命の保護活動が行われていました。残念ながら、日本のトキは絶滅しましたが、中国のトキを増殖させて島内に放鳥し、野生復帰が進められて



1：海に向かって広がる片野尾棚田／2：黄金色に染まった片野尾棚田／3：全国から集まった草刈りのボランティアの皆さん／4：棚田の生きもの調査

きました。片野尾には2019年と2022年に放たれ、悲願だったトキの帰郷が果たされました。トキが生き残った棚田を、これからもトキと暮らせる棚田として残したいという地域の人々の強い願いは次世代へと受け継がれています。

片野尾では、トキが安心して田んぼでエサを採れるように、佐渡市の『朱鷺と暮らす郷づくり』の認証を受けた稲作を実践しています。棚田の中に「江」と呼ばれる土水路やビオトープを造成・保全して、毎年集落で棚田の生きものの調査も行っています。さすがトキのふるさと、生物多様性の宝庫です。

この棚田の活動にほれこんだ人たちが、毎年全国から集まり、ボランティアで草刈りをしています。美しい里山の中で農家と共に汗を流し、酒を酌み交わし、語り合います。トキのふるさとを守り続けた片野尾の人の情愛は、都会で疲れた人の心も癒やします。心温まる長年の交流の中で、片野尾を「心の故郷」とし、通う人も多くいます。

なぜ棚田が守られてきたか

片野尾では伝統芸能として歌舞伎が受け継がれています。農業や漁業の傍ら、村で稽古を重ねて披露します。役者だけでなく、舞台設営、化粧、衣装まですべて村人の手づくりでまかない、プロ顔負けの公演を行なっており、毎回盛況です。

なぜ、これほど不利な条件でも棚田や伝統芸能が残されてきたのでしょうか。外から見ると不思議に感じますが、村の中に入れば納得します。協同の精神と豊かな里山が村人の心と体を支え、地域で暮らす誇りを育み、村を元気にしているのです。そして、知恵を出し合って不合理なものからも強みを見だし、相互補完し、逆境を克服しています。



トキの保護活動を担う片野尾の人々

3

2011年に佐渡は能登と共に日本で初めて世界農業遺産に認定されましたが、片野尾の活動はその典型例といえます。

片野尾棚田とトキに出会うツアー

昨年からは片野尾棚田を訪ねるツアーを開催しています。農家と交流しながら、棚田散策や生きものの観察、料理体験、トキとの共生の歴史を学ぶなど、内容盛りだくさんで好評です。佐渡トキファンクラブの活動の一環ですが、非会員も参加できます（入会も歓迎、年会費・入会費無料）。詳しくはトキファンクラブのウェブサイト（<https://sadotoki.jp>）で（佐渡トキファンクラブ事務局 服部謙次）

棚田へのアクセス

【公共交通】 両津港から新潟交通佐渡（株）「岩首行」バスに乗り約20分のバス停「片野尾東」下車。徒歩約25分

【自動車】 両津港からレンタカー等で県道45号経由で約20km

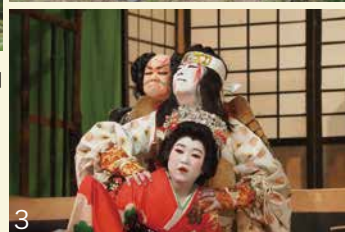
お問い合わせ

片野尾とき舞株式会社
TEL.tokimai@e-sadonet.tv
(ツアーについては、info@sadotoki.jp)

新潟県 佐渡市



1：片野尾棚田で行われたトキの放鳥／2：片野尾棚田を訪ねるツアー／3：片野尾の伝統芸能・歌舞伎





二本松城を背景に、西谷棚田

フォトエッセイ
よみがえる

西谷棚田



写真・文
太田 左恵子

自然の地形に沿った棚田こそ、そして人間の暮らしと一体化している棚田こそが、日本の最も美しい風景だと私は思います。

ここは福島県の二本松市。起源を室町時代にさかのぼる二本松城のふもとは、日本百名山の安達太良山を正面に、つなぐ棚田遺産の西谷棚田が広がります。

過疎化、原発事故、コロナ禍により、西谷棚田でもどれ程が休耕田と化したか。しかし一昨年、西谷棚田の休耕田は、突然にして復活を始めました。行政の支援もなければ、オーナー制度もないのに。

荒れ地はぐんぐん息を吹き返し、西谷棚田に通う応援団は一人また一人と増えていきます。西谷棚田は人気急上昇。ついには、県知事も農水大臣も視察に！

笑う田んぼには福来たる。西谷棚田に集う人々の笑顔が、大地をよみがえらせていくのです。



太田左恵子 おおた さえこ

●略歴

1967年福島県の絹織物産地生まれ、桑畑と棚田に囲まれて育つ。実家は絹織物製造業。福島県二本松市の造り酒屋に嫁ぎ、西谷棚田に出会う。「棚田再生仕掛け人」となり休耕田の復活にいそむ。現在、西谷棚田保全会会員、二本松市教育委員、二本松商工会議所女性会副会長、福島県森林の未来を考える懇談会委員

●著書

2023年：随筆『左恵子の随筆』福島県文学賞奨励賞を受賞
2025年：写真集『西谷棚田を守る人々～その出会いから、私は農業の偉大さを知りました～』（B5版変型160ページ）
発行所：大七酒造株式会社文化事業部
農業文化の伝承へのガイドブックであり必読の写真集



小泉農水大臣が、この小さな西谷棚田にやって来た！（2025年6月）

《田んぼに入る絵描き》の 棚田見聞録

絵・文 酒井英次

この棚田は新潟・長岡市栃尾の吹谷(手前)と来伝(中景)集落の棚田です。後ろに見える山は守門岳(1538m)です。山の西嶺には牛と牛を引く爺さん、牛の左のヤジロベエ型の人形(いずれもネガ。雪の消えた地肌が形になる)の雪形が、5月の初旬に出現して、人々に農作業の始まりを伝えます。

この頃(2004年)、棚田ネットワークで

は夏の佐渡ヒートアップ作り(トキさんの為の!)に2泊3日で、中島先生を初めてとして毎回20人位の人達が参加し、作業をしました。私も取材を兼ねて参加しました。この月布施でのヒートアップ作りは12、13年続きでしたが、休耕田も30年も経つと草は勿論、木も生えて、田の真ん中かなり太いネムの木が何本もありました。田を維持してゆく大変さを身を以て経験しました。

又、この頃はネットワークが続いていた、新潟・旧松之山町での有名なヒゲ仙人(こと田中富士雄さんの所の新田棚田で、春から秋までの全作業(苗取り、田植え、草取り、草刈り、案山子立て、稲刈り・ハサ掛け、脱穀、精米、袋詰め等)一通りの手作業での米作りを体験しました。松之山にも約15年位、新潟の「棚田の学校」の人達と毎年通いました。

今は「田んぼに入らない」絵描きになっていますが、相変わらず全国の棚田を回って取材し、描いております。田に入って、手作業での米作りの体験が、私の画を作る基礎になっていると思います。どうぞ皆さんも田に入っの米作りを体験してください。田んぼを見る目が変わると思います。



牛引き爺さんの頃
(146×224cm 2004年8月)

日程:7月2日(水)~6(日)
会場:新潟市のNSTギャラリー
“牛ひき爺さんの頃”を含む
棚田・雪形の画 約20点

個展の
お知らせ

生きものの屋の 里山考

文 写真 (株)環境指標生物 高木圭子

秋の七草にみる「季節感」の移り変わり

「夏なのに秋の七草?」と、気が早く思われるかもしれませんが、けれど、少し植物が好きならご承知のように、秋の七草の多くは梅雨明けからお盆の頃に咲き始めます。私たち現代人の感覚だと、まだまだ夏の盛りと感じられる時期に咲く花が、なぜ秋の七草と呼ばれるのでしょうか。

二、三代も遡ると、私たちの祖先の生活においては永いこと、農作業や衣食住の営み、すべてが季節の移ろいに深く結びついていました。そのため、私たちが季節を実感するような、桜の満開や紅葉の最盛期といった「盛り」ではなく、草花が芽吹き、虫や鳥が動き始めるような「兆し」にこそ、昔の人々は季節の移ろいを感じたのではないかと思います。秋の七草もまた、そんな自然の変化をいち早く捉えるのにちょうどいい存在だったのでしょう。

しかし現代では、季節は視覚的にわかりやすい「たけなわ」のイメージで語られることが多くなりました。自然から距離を置いた都市の生活様式がそうした感覚の変化を生んだように思います。さらに最近では気候変動の影響で、草花の開花や紅葉といった生物季節自体が変動し、私たちの季節感はいよいよ一層揺さぶられています。

この夏は棚田のような中山間地に出かけ、秋の七草に目を向け、祖先たちの季節の感じ方に立ち返ってみませんか。こうした時間が私たち現代人に教えてくれることは多いように思います。



6月中旬から咲き始めるカワラナデシコ

ベトナムの棚田を訪ねる

写真・文
(株) 環境指標生物
高木 圭子

「海外の棚田を見てみたい」。本誌を手にする皆さんなら、一度は考えたことがあるのではないだろうか。私もまさしくその一人です。これまで国内各地の棚田を訪ねるなかで、稲作が大陸から伝わったのなら、棚田の起源もまた大陸ではと考えるようになり、ついに昨年10月、「サバの棚田」が世界的に有名なベトナム北部の山岳地帯を訪ねました。

平地や川沿いの田んぼ

ハノイ空港からの道中、まず目に入ったのは平地や川沿いの田んぼでした。すでに多くは収穫を終えていましたが、収穫後の田んぼは日本のそれよりも余力があるようで、休耕田のように伸び伸びと雑草が育ち、放牧された水牛たちが点々と草を食っていました。彼らが落とした糞が次の稲の糧になりました。です。圃場整備が進んだ日本の平野部の田んぼとは違い、畦という畔が等高線のような緩やかな曲線を描いているのが印象的でした。こうした畔の曲線美は日本では一部の棚田の専売特許ですが、ここでは平野部でも見ることができ、昔話の世界に迷い込んだようでした。

山岳地帯の棚田

旅程3日目にしてやっとたどり着いたムーカンチャイの棚田風景に象徴されるように、山岳地帯に入ると、風景は一変しました。急峻な斜面を刻むように築かれた棚田は、なんと山頂まで細く階段状に積み重なり、遠望するとまるで巨大な要塞です。私たちが親しんできた日本の棚田と同じ言葉でひとくくりにできない圧倒的なスケールと威容に、呆気にとられてしまいました。

現代の私たちが国内でみる「棚田」の多くは、山林に囲まれた谷間の緩傾斜地です。森林や畑地、集落、古くは営場など、地形の変化や時系列に応じて、周辺には細やかで多様な土地利用がありました。燃料や建材、生活の道具や食料となる山の恵みと、棚田の暮らしはひと繋がりと思っていました。

ところがここでは、もとの山林を感じさせないほどに斜面一面、尾根も谷も段々に刻まれ、見渡す限り階段状の棚田が続くのです。

棚田に生きる人々

このような風景を目の当たりにすれば、ここでのように農業や暮らしが営まれてい



1：サバのロープウェイからの棚田風景／2：気軽に迎えてくれる村の人々／3：ウファークから望む河川沿いの田んぼ／4：稲束を箱に打ち付ける脱穀作業／5：ムーカンチャイの棚田風景

るのかに、自ずと関心が向きます。

ムーカンチャイでは、収穫した稲束を木箱に打ちつけるというかなり原始的な脱穀作業を見かけました。ベトナムの稲作は圃場整備もなく、機械や農薬もほとんど使わないそうです。また、訪れた村々に働き盛りの若い人の姿は少なく、小さな子どもたちとその祖父母世代と思われる人ばかりでした。働き盛りの多くはハノイのような都市で製造業に従事するという、日本の高度経済成長期を思わせる状況でした。村に暮らす人々は朗らかなのんびりしていて、農作業は苦にならない様子でしたが、どうやってこの広大な棚田を管理しているのか、今後労働力が不足していくなかで、このような手間のかかる農地が維持されるのか。10年20年先の景観に思いを巡らさずにはいられませんでした。

暮らしとツーリズムのはざまで

同行いただいた現地のガイドさんが民家や庭先に遠慮なく入っていく様子は印象的でした。図々しくお邪魔しても現地の人々は決まってにこやかに歓迎してくれました。前述の脱穀作業も疑問でしたが、こうした交流もどこまでが観光サービスで、どこまでが本来の暮らしや文化の現れなのか、判断が難しい部分がありました。

棚田の向こうに見えるもの

ベトナム北部で目にした棚田は、その規模だけでなく、そこにある暮らしや労働のありよう、観光との距離感を含めて、私の「棚田観」を揺さぶりました。日本の棚田に抱いていた懐かしさや繊細な美しさとは異なる、より根源的で厳しい、人の営みの痕跡としての棚田の形がそこにはありました。

棚田は単なる食料生産の場ではなく、そこに生きる人々の暮らしと文化が織りなす記憶の風景だと思っています。今回の旅で感じたさまざまな驚きや疑問を、国内外の棚田を見つめ直す新たな手がかりにできればと思っています。

棚田紀行ストーリーマップ

この旅では棚田だけでなく、地域の市場や村々を訪ね、ベトナムの食や北部少数民族の暮らしぶりにも触れることができました。紙面の都合でここでは紹介しきれませんでした。以下にストーリーマップを作成したので、もし興味があれば、ぜひご覧ください。



5



4





「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください! ご要望、感想やご質問でもOK!
(声800字まで、レポート400字まで。写真も添えて)
〒一六〇〇〇三 東京都新宿区西新宿七ーハー一六
トシンハイム新宿七〇四号「棚田に吹く風 読者のひろば」宛
メールでも受け付けています ↓ hensyu@tanada.or.jp

ながぬき 名古屋の棚田～私の声

神奈川県秦野市
ゆうき よしふみ
遊亀 美文



名古屋の棚田は、秦野市の豊かな自然と人々の営みが織りなす貴重な風景であり、近年、地域の保全活動が注目されている。この美しい棚田を守り、未来へと受け継ぐために、多くの人々が関心を寄せている。実際に棚田を訪れ、保全活動に関わった読者の声として記載する。

「心が落ち着く場所」

社会人として秦野の風景に親しんできた私は、「名古屋の棚田を訪れるたびに、昔の記憶がよみがえる」と言える。都会では感じられない、静けさと穏やかな時間がここには流れており、棚田を歩くことで心が落ち着く場所である。

「生き物の豊かさに驚き」

生態系に関心を持つ私は、名古屋の棚田での水質調査や水生昆虫の観察に参加し、「小さな田んぼ一つにこれほど多様な生き物が生息

していることに驚いた」と感想を持った。農業と自然が共存する場として、棚田の価値を改めて感じると言える場所である。

「棚田を守る活動に参加して」

ボランティアとして棚田の保全活動に携わる私は、「棚田はただの田んぼではなく、地域の歴史と文化そのものだ」と言える。無農業での米作りに挑戦し、昔ながらの方法で水の管理を学ぶ中で、農業の大切さと、身をもって理解したと言える場所である。

「新しい世代へ伝えたい」

子どもと一緒に棚田イベントに参加した私は、「都会ではなかなか体験できないことを子どもに教えられるのがうれしい」と言える。棚田の風景や農作業を通じて、食べ物の大切さや自然とのつながりを学ぶ機会となったと言える場所である。

名古屋の棚田は、ただの農地ではなく、人々の思いが詰まった場所である。その美しい景観と豊かな自然を守るため、多くの人が活動に関わり、それぞれの視点でその価値を感じている。こうした声を通じて、棚田が持つ意味をより深く知り、未来へとつなげるためのきっかけになればと思う場所となっていると言える。



読者の Best Shot!

つづら棚田 福岡県うきは市
九州大学総合研究博物館 専門研究員 菊地 稚奈

都市からの通い耕作でどこまで棚田保全に貢献できるか? そんな社会実験も兼ねた棚田耕作活動「棚田まなび隊」を福岡県うきは市のつづら棚田で行っています。1枚1枚が小さいが故に、小さな機械でも耕作できるという棚田のメリットを生かし、管理機で田おこしと代かきを行っています。近隣の古老からは「管理機で田おこしや久しぶりに見たねえ。機械の馬力が足りんから、子どものころは機械の上に座られよったよ」と懐かしがられています。



棚田ネットワーク「総会」「ミニ講演会」雑感

東京都品川区 高山 承之

通常総会とミニ講演会が、5月17日にエコギャラリー新宿で開かれ、無事終了しました。冒頭杉山代表より2024年の活動として、棚田サミットは全体交流会に『まもりびとミートイニング』が組み込まれるという構成だったが、中島名誉代表の力で何とかまとめていただいた。能登半島地震で被災した白米千枚田についてエコプロ2024内で展示を行い、農水副大臣も来訪し関心を持たれた。『棚田ナビ』は『日本の棚田百選』『つなぐ棚田百選』を網羅。掲載350か所に及び日本一の棚田検索サイトとなった。12年目の『旧暦棚田ごよみ』は好評で昨年同様の販売部数。今年も元気で会の活動を続けたい、との挨拶がありました。

総会後の第二部はミニ講演会で、はじめに農林水産省地域振興課の中野課長補佐をお迎えし、3月に延長された棚田地域振興法の成果、改正点の解説。コメや棚田をとりまく最近の情勢等を語っていただきました。続いて久野理事より、13年で区切りとなった石部棚田での『昔ながらのお米づくり』の報告。経過の説明とともに、画像には復田の様子や『蓑口』（藁で作り、下の田に水をソフトに落とす古来からの知恵）、プロジェクトの指導役であった現地の方々も映し出され、かつてお世話になった故人の動画には涙して見る姿もありました。終了後懇親会があり、年に一度の交流を深めました。

上：開会挨拶の杉山代表／中：ミニ講演会の様子／下：久野氏の発表



編集部イチオシ! BOOK & MOVIE



忘れられた日本の村 (増補版)



筒井 功 著
2,450円(税込)
河出書房新社
2022年7月

タイトルは民俗学者宮本常一氏の『忘れられた日本人』から借用されたもので、本のタイトルには著作権は及ばない」とされる慣例による。

本書は、農村も漁村も山村もどんな町に似たたらずまいに変わっているこの時代に、東北から九州までの七つの地方から一つずつ、記憶され記録を残すに値すると著者が考えた村を選んで紹介することを目的に執筆された。

※2016年に刊行された同名書に二つの章を増補。

- 一章 出雲国の水晶山と「たたら村」
 - 二章 マタギはなぜアイヌ語を使っていたか
 - 三章 断崖の漁村「御火浦」略史
 - 四章 雪深い北陸「絢子舞い」の里
 - 五章 大分県「青の洞門」の虚と実
 - 六章 阿波山岳武士の村と天皇家をつなぐ糸
 - 七章 地方の村の歴史——千葉県・丁子から
 - 八章 近代、岩手県にあったアイヌ人集落の話
 - 九章 伊豆下田のはずれ—米山信仰の村の数奇な歴史
- 各土地の地理や環境条件の中で育まれた個性豊かな村々の活気あふれる時代がしのばれる。村の歴史を語り継ぐ人物取材し、エッセイとも旅行記ともいえる内容の一冊。

14

千葉県鴨川市

川代棚田でお米づくり

棚田の田植えと草刈り



鯉のぼりが泳ぐ川代棚田では、5月3日(祝)大勢のオーナーさんが集まり田植えが行われました。鴨川市長さん、集落の庄司代表、棚田ネットワークの杉山代表の挨拶があり、開会式が終わると田んぼに入りました。横一列に並び、田植えに挑戦する子供たちの歓声のなか2時間ほどで終わり、その後は木陰での昼食タイムを満喫しました。棚田ネットワークの参加者は32名でとても賑やかでした。朗報！広場奥のトイレは男女別のおしゃれなトイレに生まれ変わりました。

さらに、6月1日(日)には田んぼの畦の草刈りで、スタッフの他に任意参加で1家族4人が参加してくれました。爽やかな初夏の風を感じられるなか2時間弱で終了しました。また、田植え当日は大雨の直後で水が深く、うまく植えられなかった所も残り、農家さんにも手伝ってもらい苗の補植作業も行いました。次回の草刈りは7月6日(日)です。また、稲の育ち具合を見に行きましょう。(杉山行男・上久保郁夫)

岐阜県恵那市

棚田ビオトープ プロジェクト

「第18回 かえるの卵を探そう」と田植えを開催しました



七十二候の「葭始生(あしはじめてしょうず)」の頃、春の水溜まりに卵を産むヤマアカガエルの卵塊を探す「第18回かえるの卵を探そう!」の本調査を2025年3月20日(木/春分の日)に開催しました。合計26名(大人9名、子供17名)の参加、ヤマアカガエルの卵塊は11個ありました。大人数でにぎやかな調査となりましたが、小さな子供も多く、途中で集合場所の「なごみの家」に戻る「離脱者」も多かったです。今年は3月15日、20日、4月5日、12日と都合4回の調査で122個の卵塊を見つけることができました。

七十二候の「蚕起食桑(かいこおきてくわをはむ)」の頃、5月25日、田植えをしました。今年は様々な事情から岐阜県立国際園芸アカデミーの学生の参加はなく参加者は3名。しかし、本会代表理事の杉山行男さんが参加してくれて嬉しい限りです。この日は棚田オーナーさんの田植えの日で、オーナー田の田植えを終わらせてからの参加でしたので、杉山さんが疲れなかったか心配です。

(相田明)

【トロノキファーム奮闘記】

文・写真 トロノキハウス 阿久澤剛樹

この冬は特別豪雪地帯の当地の人でさえ驚く大雪でした。たっぷり水があって田植えにはいいでしょうって？ そうかもしれません。でも安心はできません。2年前、復田した蒲生の棚田の初めての田植えは順調でした。が、その後7月から8月上旬にかけての大旱魃で全く雨が降らず、稲は壊滅的。大旱魃の爪痕は昨年の田植えにも大きく影響。代掻きしても水がたまらず、結局田植えできたのは全体の半分以上でした。そのうえ、一昨年の旱魃の記憶が生々しすぎて中干しができなかったところに、稲刈り前の台風による風雨で、稲は水浸しの田圃に倒伏してしまい(泣)。こうなると稲刈りにコンバインが使えず、頼みのバインダーも故障…人力勝負の全面手刈り&はさかけとなったのでした。大勢のボランティアの参加によりなんとかトロノキファーム史上最も困難な稲刈りを終えるも、屈強なボランティアからは「稲刈りってこんなに大変だったんですね…」という声も(いえいえ兄さん、本当はコンバインです！いきたかったですよ)。一昨年、昨年の田植え、草取り、稲刈りに助っ人参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました！今年のジョソササイズも何卒よろしく！



第30回

全国棚田(千枚田)サミット▶別府

会場:別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ) ほか

2025
11/1 土・2 日

主催:全国棚田(千枚田)連絡協議会



棚田でウェル
想いと願いをこめて

内成棚田▼



お問い合わせ▶ 第30回全国棚田(千枚田)サミット実行委員会 事務局:別府市役所 農林水産課
〒874-8511 大分県別府市上野口町1番15号 TEL. 0977-21-1133 FAX. 0977-23-0552

棚田サミット
告知ページ▶



わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか!

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になろう!

年会費

私たちは、会報誌「棚田に吹く風(年4回)」やホームページで豊富な棚田情報を発信しています。会員になりこれらの活動に参加してみませんか?

○個人会員

維持会員	1口1万円(1口以上)
一般会員	4,000円
応援会員	3,000円
学生会員	2,000円

法人会員を募集しています!

私たちは、棚田を守るため、農山村の人々と都市住民双方の協力のもとに様々なプログラムを企画・運営しています。これらの社会貢献活動に賛同し、ご支援いただける企業・団体・事業主様を募集しています。詳細はお問い合わせ下さい。

年会費

○法人会員(賛助会員)
1口3万円(1口以上)

編集部から

12年ぶりにポルトガルを訪れた。ポルトガルは、年間一人当たり20kgも米を消費するヨーロッパの米食い国だ。今回、ポルトガルからリスボンへポルトガルを縦断する特急の車窓から、まだ耕作が始まってなかったが、区画された畔のある田園地帯を見ることができた。ポルトガル語でお米は「Arroz」という。中粒種で、それ自体あまり美味しくはなく、味をつけて食べる。今回、石部棚田で収穫された玄米をお土産に持って行き、土鍋で炊いておむすびにして食べてもらった。味をつけないお米がこんなに美味しいとは!と感嘆の声をあげてみな喜んでくれた。ポルトガル人にも日本のお米の美味しさがわかってもらえて嬉しかった。



2025年 夏号 Vol.136

発行



認定NPO法人

棚田ネットワーク

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-18-16トーションハイム新宿704号
Tel / Fax 03-5386-4001
e-mail: info@tanada.or.jp URL: www.tanada.or.jp
郵便振替口座: 00100-7-151565

ホームページのぞき見!

棚田ネットのWebサイトも
見てみてください!



<https://www.tanada.or.jp>